

群馬県議会 リベラル群馬

街頭演説1800日
県政の革命児!

県議会だより

後藤かつみ

vol.29

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com

http://www.ccrgoto.com/

地場企業支援のコンベンション計画に対案提示

本会議一般質問に登壇

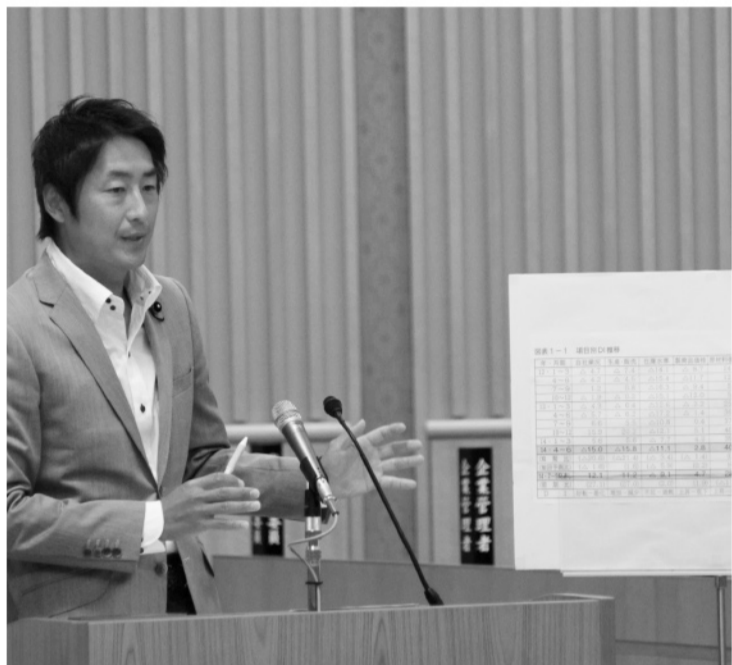
地場企業支援策

「内発型」の地場企業支援を提言

企業誘致に代表される「外発型(外から呼び込む)」の経済政策に、大澤知事は最大2億円の企業誘致補助金を創設するなど力を入れてきました。しかし、そのような政策に消極的であった小寺県政時代と比べ、工場立地等の実績が上向いている訳ではありません。

後藤は、企業誘致策自体を否定はしませんが、しかし、高度成長期のように国内で増え続ける企業や工場を地方に呼び込む時代には適した政策ですが、逆に工場がピーク時の半分以上で減り続けている時代に、自治体同士が企業を引っ張り合う「消耗戦」には限界があると考えます。

むしろ、中長期的な視点に立つて、地場企業の持つ潜在力を地道に引き出す「内発型」の施策の方が、確実に効果を上げる時代に来ていると提言しました。



地場企業支援策についてパネルを用いて提言。

マンネリ化している施策にも磨き上げの余地



福岡県の「デザインアワード」の取り組みを調査。



優れた商品を常設展示する「D12」も視察。

その一つの切り口として、今年度の「事務事業見直し委員会」で改善を指摘された「グッドデザインぐんま」を取り上げました。H5年から始まり、地場企業の商品デザイン力を向上させ販路拡大を目指す重要な施策なのですが、マンネリ化の指摘を受けています。

後藤は、福岡県の「デザインアワード」という群馬と同趣旨の施策を視察調査した経験から、①デザイナーの専門家やバイヤーが多く携わっている点、②優れた商品を常時展示販売している点、③県内4エリアで毎月企業との学習会を長年続け、好評を得ている点を取り上げ、似た施策でも力の入れ方で全く違うものになるということを指摘しました。

つまり、「取り敢えず継続している」ような地場企業支援策であっても、磨きをかければ効果的な「内発型」振興策に変える余地は十分あるということとを、実例を挙げて提言したところです。

コンベンション施設建設計画 県民の側を向いた計画検討を

建設計画を決めるのは知事も知れませんが、負担するのは県民であることを忘れてはなりません。その県民に最も重要な「財政負担」の情報を殆ど示していないことに後藤は問題を感じています。

かねてより報告してききましたが、写真の「幕張メッセをはじめ、県の「基本計画」で大幅な赤字を上げている事例として紹介されている施設が、実態は「金食い虫」であることが視察調査の中で分かりました。加えて、今やコンベンション市場は競争が激化しており、誘致のために最低でも億単位の

予算を投じないと生き残れないという専門家の指摘を受けています。

これらの状況を群馬に置き換えると、仮に運営が上手く行ったとしても、単純計算で10億円程度の一般財源が毎年コンベンション事業のためにつき込まれる可能性がります。つまり、本来なら福祉や子育て支援などに回せなければならないお金を、コンベンション施設の維持のためにつき込んで良いのかどうかを県民に正直に示し、アンケート等によって意見を問うべきと指摘したところです。



幕張メッセを視察。有名施設での厳しい実態を痛感。